

# サンゴ礁

沖縄・宮古島沖の八重山瀬(やびじ)では、澄み切った青い海にサンゴが群生している  
|| 本社機「あすか」から、小林裕幸撮影



# 沖縄



「地球が破局を迎えるかもしれない」と思うのは、あの色とりどりの美しいサンゴを見たせいで。

沖縄が本土復帰してまだ間もない70年代後半、石垣島や西表島の海を潜った。この世に存在するすべての色を一度に見た気がした。元気いっばいなサンゴが青む豊かな生態系が生んだ、奇跡の光景だったと思う。

だがそれは、「占領」という住民の犠牲の上に立った偶然の産物だったのかもしれない。

その後、開発が進み、サンゴを食べるオニヒトデも大量発生した。海水温の上昇で白化現象

が起き、八重山のサンゴは壊滅的な被害を受けた。新たな病気も次々に見つかっている。沖縄だけではない。環境の悪化に敏感な「海のカナリア」は、同じように世界中で絶滅の危機にある。

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は昨年、「私たちが本気で温暖化対策に取り組めば、まだ深刻な被害から逃れられる」というメッセージを発した。だが、あの「色とりどりのサンゴ」を再び目にするまでは、そのメッセージを信用できないだろう。

(編集委員・石井徹)

沖縄・石垣島のサンゴは、海水温の上昇で広範囲に白化していた  
＝恒成利幸撮影

# 白の侵略